

Writing Support Center News Letter

ライティングサポートセンターニュースレター

No.004 発行日：2022年3月31日

ライティングサポートセンター・ニュースレターは、当センターの活動を、先生方により知っていただき、ご活用願うこと、学生に向けて利用を促していただくことを目的に発行しています。

巻頭言

学生教育補助員へのレポート添削トレーニング

—社会学部コミュニティマネジメント学科とライティングサポートセンターとの協働—
社会学部コミュニティマネジメント学科 特任准教授 坂本清彦

「現場」での学びと「学問的」な学びの「架橋」をめざす社会学部コミュニティマネジメント（CM）学科では、ライティングサポートセンター（WSC）に、その「橋」の基礎づくりに協力いただいています。その一環で2021年度に行った、CM学科2回生の「基礎ゼミ」での学生教育補助員へのレポート書式の添削トレーニングについてご紹介します。

CM学科は地域コミュニティで活躍できる「幅広い教養と実践力を備えたコミュニティリーダーの育成」を使命とし、社会の現場での学びと学問とを結びつける教育に力を注いできました。「現場主義」

を掲げる社会学部でも、特にCM学科は1年次後期の必修科目「入門実習」をはじめ、学生が学外の「現場」で学ぶ機会を数多く提供しています。一方で学生に「幅広い教養」を身につけてもらうため、学術研究スタイルの卒業研究を必修としています。

とはいえ、多様な社会の現場での経験と専門性を追求する学術研究という、振幅の大きな学びを結びつけることは容易ではありません。CM学科の学生は初年次「入門ゼミ」と2年次「基礎ゼミ」という必修科目で、大学での学びのあり方や学術論文のスタイルを学びます。そうした機会はあるものの、3回生以降専門性が高まるゼミや卒業研究でのレポート・論文執筆の際、学んだはずの引用や出典提示、文章表現ができていないことが往々にしてあります。

そこで2021年度、論文にふさわしい文章スタイルをしっかりと学んでもらうため、担当教員で協議して上級生の「ゼミサポーター」（ゼミサポ、学生教育補助員）に2回生の学修支援に参画してもらうことにしました。ある程度標準化できるレポートの書式や引用、文献の提示方法の添削などをゼミサポに一部お願いすることとし、そのためのトレーニング（研修）をWSCのご協力のもと行ったのです。

（次頁へつづきます）



研修では、WSCの「レポート書式見本」を見本にして、ゼミサポ9名に「良くない」レポートのサンプルの模擬添削をしてもらいました。その後、ゼミサポのオンライン研修でWSCスーパーバイザー島村先生に、サンプルを題材にして添削方法を指導してもらいました。

取り組みを進めてきた張本人として残念ですが、こうした試みの結果はまだまだ「成功」といえるものではありません。担当教員の指導スタイルも異なり、ゼミサポの活用について戸惑いのあった先生もおられ、全てのクラスでゼミサポの学修支援がうまく機能したとは言い難いところです。

それでも、WSCなど学内の豊かな学修リソースを活用し、先輩学生を含めてさまざまな人に学びに参画してもらうことは、多様化する学生の背景、学びの目的、学修スキルに応えるために不可欠になると思います。さまざまな学生のニーズに1人の教員が対応しきることはすでに困難であると考えます。実は2021年度のCM学科の基礎ゼミと入門ゼミでは、WSCのほか図書館やキャリアセンターのご協力を得て、学生参加型の図書館オリエンテーションや2年次でのキャリアセミナーを開催し、好評を得ました。WSCと協力して実施したゼミサポのトレーニングも、こうした学内学修リソースを幅広く有機的に結びつけた活用を目指す試みの一環で、初年度の問題点を修正しながら2022年度も継続していく予定です。

(2022年3月25日時点での寄稿。本稿は執筆者の個人的見解であり、社会学部及びCM学科の見解を代表するものではありません。)

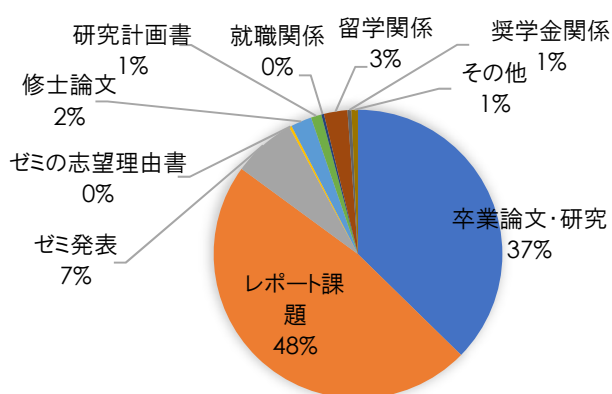
ご報告 2021年度の実績

(1) 相談者総数：652人（のべ、オンライン：350人、対面：302人）

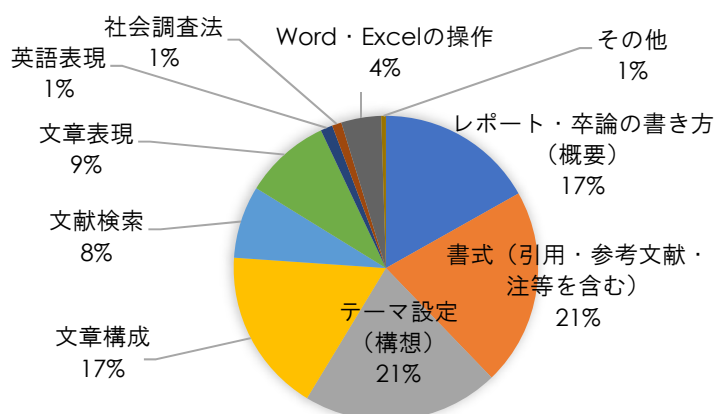
*対面相談枠は45分の設定としているため45分の区切り、オンライン相談枠は60分の設定としているため60分の区切りで、それぞれで算出している。以下、特記しないかぎり、これにしたがった算出。

(2) 相談内容

【相談内容種別の割合】



【相談内容性質の割合】



(3) 学部（大学院）・学年別 *単位：人

表中、国際は国際文化を含む。また、先端理工は理工を含む。

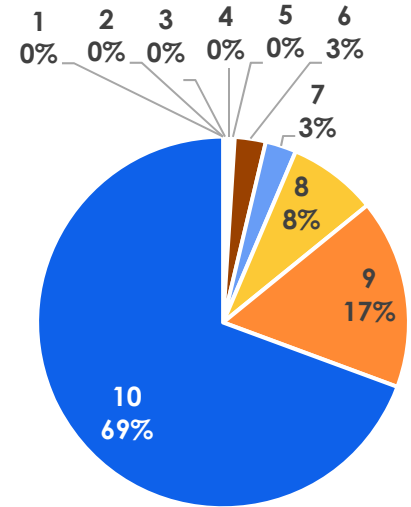
	文	経済	経営	法	政策	国際	先端理工	社会	農	短期大	留学生別科	学年合計
1年	66	0	6	12	0	159	2	7	3	0	1	256
2年	13	3	12	1	0	28	5	11	2	1	0	76
3年	11	1	0	2	0	11	3	5	9	—	0	42
4年以上	68	47	4	0	2	72	4	61	0	—	0	258
修士	7	0	0	0	0	0	0	14	0	—	—	21
学部合計	165	51	22	15	2	270	13	98	14	1	1	652

(4) 学部・研究科・学科別 ＊単位：人

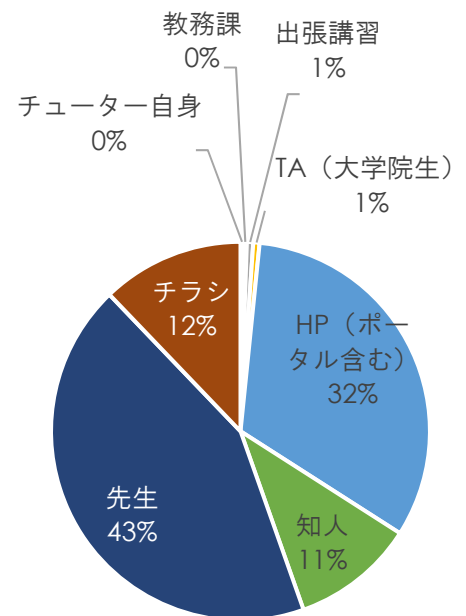
学部／研究科	学 科（専攻・課程）	相談者数	合計	参考 昨年
文学部	真宗	7	158	2
	仏教	73		5
	哲学・哲学	16		5
	哲学・教育	10		2
	臨床心理	6		3
	歴史・日本史	7		6
	歴史・東洋史	6		16
	歴史・仏教史	3		2
	歴史・文化遺産学	1		6
	日本語日本文学	7		7
	英語英米文学	22		5
経済学部	—	1	51	6
	現代経済	42		0
	国際経済	8		6
経営学部	経営	22	22	15
法学部	法律	15	15	8
政策学部	政策	2	2	27
国際学部	グローバルスタディーズ	142	270	39
	国際文化	128		104
	—	0		1
先端理工学部	数理・情報科学	0	9	0
	知能情報メディア	2		0
	電子情報通信	2		0
	機械工学・ロボティクス	3		2
	応用化学	0		2
	環境生態工学	2		0
理工学部	数理情報	0	4	1
	情報メディア	4		0
	電子情報	0		1
社会学部	社会	41	84	41
	コミュニティマネジメント	18		18
	現代福祉	25		19
	地域福祉	0		4
農学部	植物生命科	6	13	5
	資源生物科	1		1
	食品栄養	3		3
	食料農業システム	3		9
短期大学部	社会福祉	1	1	4
	こども教育	0		4
文学研究科	真宗学	5	7	5
	日本史	2		0
社会研究科	社会福祉学	14	14	0
農学研究科	食農科学	1	1	0
国際文化学研究科	—	0	0	4
留学生別科	—	1	1	0
合 計		652	652	388

(5) 利用者の満足度

(最高値10、最低値1)



(6) 広報の効果



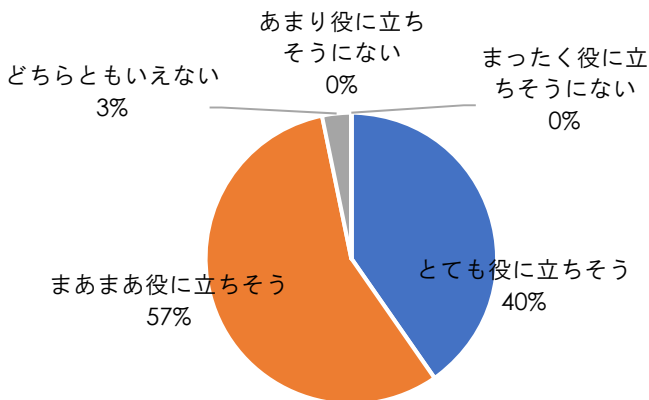
(7) 講習会

本年度の講習会は、以下のとおり、4回実施した。形態は、本学の活動制限レベルに基づき、前期をオンライン、後期をハイブリッドにておこなった。

【講習会のテーマ・形態・実施日等】 * () 内の数字は、対面での参加者数

講習テーマ	実施形態	実施日	時間帯	予約者数	参加者	
					人数	予約者数に対する割合
レポートのタイプを知る	オンライン (GoogleMeet)	5/10 (月)	12:40 ~ 13:20	77	59	76.6%
レポート(論証型)の実際を知る		5/14 (金)		82	55	67.1%
学術的な文章の読み方を知ろう	ハイブリッド (GoogleMeet+和顔館ア クティビティホール)	10/20 (水)		62	35 (1)	56.5%
卒業論文をスムーズに作成するために		10/27 (水)		63	28 (1)	44.4%
合 計				284	177	62.3%

【講習会参加者の評価】



*ライティングサポートセンターの取り組み
ほかにも以下のような取り組みを行いました。

○先生方との連携としての出張講習
先生からの要望を受けて、レポートにかんするテーマで授業実施教室にて実施しました。前期は、やむを得ず録画データの提供を4件、後期は6件（学生受講数合計147人）を行いました。

○図書館との連携
ライティングと表裏一体の読書を学生に促すべく、深草・瀬田図書館と連携し、前期・後期にテーマを設けた「おすすめ本」の展覧を行いました。

これらは、継続して取り組んでいきます。

ご案内

学部学科向けのライティングサポートセンター説明会

竹内綱史先生（経営学部）からのお誘いで、龍谷大学教養教育センター人文科学系科目部会「大講義教養科目オンライン授業の改善に向けて」第1回研究会「大講義オンライン授業における成績評価」にて、当センターの説明をする機会がありました。当センターのより深いご理解ご協力を賜るためには、当センターの説明をさせていただくことが重要と考えております。「(6) 広報の効果」に照らしても、先生方からセンターのことを聞いて利用した学生の割合が最も高い結果になっております。そこで、各学部学科に向けて、当センターの説明会をご要望いただければ、実施したく存じます。説明会の概要は、つぎのとおりとなっております。

【ライティングサポートセンター説明会の概要】

1. 目的・設置・理念・基本姿勢
2. 体制
3. 実績
4. 教員との連携
5. ほかの取り組み
6. チューターの育成
7. 相談対応の流れ
8. 相談対応上の基本的な立脚点
9. 相談対応に用いる資料

ご要望は、奥付にある【連絡先】までお寄せください。

ライティングサポートセンターでは、以下の要領で先生からの依頼を受けて出張講習を実施しております。ご活用くださいますよう、ご案内申し上げます。

【出張講習の要領】

1. 出張講習の実施者・対象・実施対応日・実施場所

- 1) 実施者：スーパーバイザー、もしくはチューター・リーダー（1名）
- 2) 対象：原則として、1年生の受講科目を対象とします。
ただし、その他の授業についても、ご相談の上、実施することを検討させていただきます。
- 3) 実施対応日：月～金曜日 10：00～17：00
- 4) 実施場所：授業実施教室

＊緊急事態宣言、まん延防止重点措置が出ている場合は中止させていただきます。
中止の場合は、録画データの提供することも検討いたします。ご了承ください。

2. 実施内容

以下の4つの講習テーマを用意しております。そのなかから1つをお選びください。それぞれの概要は裏面をご参照ください。所要時間は各テーマおよそ60分です（そのうち、センターの紹介やアンケートに少々時間をください）。

- ①レポートにおけるテーマの絞り方
- ②レポートの作り方A——構成を知ろう
- ③レポートの作り方B——手順を知ろう
- ④レポートの作り方C——引用の仕方・注と参考文献の書き方

3. 実施までの経緯

- 1) 連絡先 wsc@ad.ryukoku.ac.jp
- 2) 連絡から実施までの流れ
 - ①実施希望日の2週間前までにご連絡ください。
 - ②その後、簡単な打ち合わせをお願いします。
 - ③授業実施教室にて実施します。
- 3) ご連絡いただく内容
 - ①先生のお名前
 - ②メールアドレス
 - ③該当科目名
 - ④受講者数
 - ⑤実施内容（「2. 実施内容」①～④の中から1つ選んでください。）
 - ⑥実施希望日（候補日を3日ほどお知らせください。）
 - ⑦実施場所（設備の面で、教室変更をお願いする場合があります。）
 - ⑧そのほか（ハイブリッド形態で実施するなど）

4) 注意事項

- ・極力実施できるように努めますが、やむをえず実施できない場合はご了承ください。
- ・センターの出張講習は、1つの講義科目につき、1回とさせていただきます。

【各講習テーマの概要】

①レポートにおけるテーマの絞り方

レポート課題を提示されてもどのように取り組んでいけばよいのかわからない学生が数多くいます。本講習では、レポート課題に則して、自分なりの観点を見出していく過程を説明します。まず、自分のレポート課題に対する興味のあるところを考える方向です。次に、興味や関心があることを軸に検索し、収集した情報をもとに広がりや深みを探ります。最後に、レポート課題との関係性を考えます。このような流れを把握してもらう内容になっています。

②レポートの作り方A ——構成を知ろう！

本講習は、レポートを作成する基本的な事項として、その構成を把握してもらう内容となっています。具体的には、まず、レポートを難しく感じる原因に、問いの設定および自分の考えが不明瞭なままに書きすすめる点にあることを解説します。自分の考えが明確にできたら、次にそれを読み手に分かりやすく伝えなければなりません。そのためのレポートの基本的な構成として、序論、本論、結論の役割について簡潔に説明します。なかでも序論の重要性を強調して解説します。序論ではそのレポートで自分が主張したいことを明確にし、本論は序論における主張の裏づけとしての役割を担います。結論は序論との対応を確認し、本論の要点のみを簡潔にまとめます。そのような説明のあと、レポート見本を用いて確認します。

③レポートの作り方B ——手順を知ろう！

本講習は、レポートを作成していく際の思考の仕方と、作成過程を理解してもらうことが、目的となっています。具体的には、「メモ」「構想表」を用いることを重視して説明します。その際に「読む」「調べる」「メモ」の過程を、必要に応じて「メモ」や「構想表」の実例を示しながら解説します。「構想表」については、序論・本論・結論の要点を踏まえながら、「メモ」を活用して論理の道筋をつくっていくあり方を提示します。また、推敲の必要性についても付言し、完成に至るまでの経緯を知ってもらいます。

④レポートの作り方C ——引用の仕方・注と参考文献の書き方

本講習は、引用の大切さを理解すること、そして注・参考文献の書き方をマスターすることが目的です。これらの表記方法については、おおよそ『社会学評論』の「スタイルガイド」に拠っています。具体的には「直接引用する方法」や「要約引用する方法」を説明し、実際のレポートを交えて理解を促します。その後、実際に引用したものに注をつけ出典を掲示するという一連の工程を示します。最後に様々な参考文献（インターネットも含む）の書き方を説明します。

ご案内

授業実施教室でのライティングサポートセンター紹介・説明

ライティングサポートセンターでは、学生に利用を促す一環として、先生方が授業をされている教室へ出張して、当センターの紹介・説明をおこなっております。所要時間は、10分程度です。概要は、つぎのとおりとなっております。

【ライティングサポートセンター紹介・説明の概要】

- (1) ライティングサポートセンターとは
センターの基本姿勢や対応範囲などを説明します。
- (2) よくある相談
具体的にどのような相談がよく寄せられるのかを紹介します。
- (3) 参考資料
ごく簡単にセンターで用意している資料について紹介します。
- (4) 本年度の開室
本年度の開室情報を提示します。

ご要望は、奥付にある【連絡先】までお寄せください。

ライティングサポートセンター（以下、センター）主催の講習会を下記のとおり実施いたします。つきましては、教員各位からも学生に講習会開催についてご案内いただきたくご依頼申しあげます。センターの利用者アンケート結果では、利用したきっかけの半数以上が先生方からのご紹介です。少しでも多くの学生に行きわたるように、可能でしたら授業のなかでご周知いただけますと幸いです。ご協力いただける場合は、先生方の大切な授業の時間を割いていただくことになり、誠に申し訳ございません。何卒ご協力のほど、よろしくお願い申しあげます。

講習会では、チューター・リーダー（大学院生）がパワーポイントを用いて説明いたします。

実施は、対面・オンラインのハイブリッド形式を予定しております。

記

1. 講習会の内容

①講習テーマ：レポートのタイプを知るーレポートを書き始める前にー

日時：2022年5月18日（水）12：40～13：20

場所：深草学舎和顔館1階アクティビティホール + オンライン（Google Meet）

概要：レポートと感想文とのちがい、整理型と論証型のとらえ方を解説する内容です。

②講習テーマ：レポートの実際を知るー論証とはー

日時：2022年5月25日（水）12：40～13：20

場所：深草学舎和顔館1階アクティビティホール + オンライン（Google Meet）

概要：多くの学生が難しいと感じる論証型レポートの、とりくむべき要点を解説する内容です。

2. 参加方法

- 対面での参加
直接、深草学舎和顔館1階アクティビティホールまでお越しください。予約等は不要です。
- オンラインでの参加
ポータルサイトのアンケートよりお申込みください。
実施に際しては、GoogleMeetを用います。

3. 学生向けのチラシ

本学ホームページにあるライティングサポートセンターの部分に挙げております。ダウンロードしてご利用いただけます。

また、必要部数を申し出いただければ、印刷してお渡することもできます。

ライティングサポートセンター <https://www.ryukoku.ac.jp/writingsupport/>

*お問い合わせは、奥付にある【連絡先】までお寄せください。

平素よりライティングサポートセンター（以下、センター）の活動にご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、センターは、対面にて開室しております。また、現下の状況から、合理的配慮の観点より、オンラインでも受け付けております。そこで、標記の件について、センターを学生に周知していただきたく、下記のとおりご依頼申し上げます。先生方におかれましては、ご多忙のところ誠に恐縮ですが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

センターでは、学生へのアカデミックライティングの指導を主な目的として、「学生に考えさせる」（答えを教えず、考え出す機会を与える）ことを基本姿勢に、大学院生を中心としたチューターがレポートや論文作成など、書くことに関するサポートを行っています。センターへのご意見・ご質問などがございましたら、奥付にある【連絡先】までお寄せください。

記

ご依頼の内容

学生にセンターについて以下の事項について、ご紹介ください。

1) センターの概要

レポートや卒業論文など書くことにかかわる相談に応じるところです。センターでは、大学院生のチューターがいっしょに考え、学生のみなさんが自らの答えにたどり着けるようサポートします。レポートや論文、レジュメなどを作成するにあたって、例えば、次のようなケースで当センターをご活用ください。

- レポート課題や卒業論文などについて、どのように取り組めばよいのかわからない。
- 書いてみたものの、文章に自信がないので他の人に意見を聞きたい。
- 根拠になる資料を探したいけど、どうすればいいのかわからない。
- 英語でレポートを書かないといけないけど、形式や表現に自信がない。

*資料も用意しています。「レポート書式見本」や「レポートを書くためのチェックシート」など、ほかにも多数用意しているので、相談時、チューターに聞いてみてください。

2) 利用方法

各学舎開設場所まで直接お越しください。対面での相談に不安のある方は、Google Meetにて相談を受け付けています。

【日時】 4月18日～7月27日 11:30～16:00（受付15:45まで）

*基本は授業実施日に準じます。

【場所・曜日】

- ◆深草：和顔館1F スチューデントcommons 月～金曜日
- ◆大宮：東翼2F スチューデントcommons 月・水・木曜日
- ◆瀬田：智光館B1F スチューデントcommons 月・火・水曜日

【オンラインでの受付】

ポータルサイトのアンケート部分から予約にて受け付けています。利用手順などの詳細は、本学HPをご覧ください。

→ 本学HP ライティングサポートセンター <https://www.ryukoku.ac.jp/writingsupport/>

***チラシを講師控室に準備しております。ご活用ください。**



Ryukoku University

Writing Support Center News Letter

No.004

編集：教学企画部

<https://www.ryukoku.ac.jp/writingsupport/>

【連絡先】

ライティングサポートセンター

E-mail: wsc@ad.ryukoku.ac.jp

担当：教学企画部 栃木、荒木

(内線1050,1051)